

オーストラリアクルーズマーケット事情

大阪大学 赤井 伸郎

2025年3月、シドニー発着の週末ショートクルーズ(3泊4日:寄港地は、エデン(シドニーから500KMほど南にある小さな田舎町)、クルーズの詳細は、本号掲載の乗船記を参照。)に乗船する機会を得た。素晴らしいシドニーの中心地、高層のオフィスビルやホテルが立ち並ぶシドニーハーバーから、オペラハウスとシドニーハーブリッジを背に、大型クルーズ客船が発着する光景(本ページ写真)は、いつ見ても、本当にこのような構図が現実存在するのと思うほどの美しさである。

プリンセスクルーズの大型客船ロイヤルプリンセス号は、汽笛を「奏でながら」悠々と出航した。シドニーハーバーを背に回転し、オペラハウスを右舷に眺めながら、シドニー湾を進む。美しいシドニーの街を後にし、ショートクルーズが始まった。

ショートクルーズというだけあって、乗客には、気軽に週末を楽しもうと乗船してきたオーストラリア人が多かった。長期のクルーズには、海外からの客も多くなると思われるが、ショートクルーズは、オーストラリア人にとっての

身近な旅として定着しているのである。

このたび、オーストラリアのクルーズマーケット事情に関して、オーストラリアでカーニバルグループの担当者にヒアリングをすることができたため、その内容から、状況を整理してみることにしたい。

新型コロナウイルスによるパンデミックの際、日本では、ダイヤモンドプリンセスでの感染者の隔離対応が目されたが、オーストラリアでは、2020年3月19日のルビープリンセスでの感染が大きな議論を呼び、2022年にクルーズが開始されたものの、しばらくの間は、オーストラリアにおいてもクルーズを避ける雰囲気が続いた。

その後、2023年からの急激な物価高騰で、旅行の費用も高まる中、オールインクルーシブで、物品の海外調達によりコストを抑えることができるクルーズが注目を浴びるようになった。2023/24年の冬のクルーズシーズンでは、市場キャパシティが記録的な伸びを見せた。その背景には、クルーズ料金の大幅な値下げとマーケティングが促進されたことがある。

しかし、値下げによって収益性が低下し、船社の撤退があったため、25/26年の市場キャパシティは23/24年と比較して30%減少する見込みである。これは、クルーズ客船が、より収益性の高い市場(米国やヨーロッパ)に投入されたためである。

事例としては、23/24年シーズンにオーストラリアに配船されていたヴァージンクルーズやキュナードラインがオーストラリア市場から撤退している。P&Oオーストラリアは3隻の船を市場に投入していたが、1隻を売却し、残りの2隻はカーニバル・クルーズラインに移管されている。シドニー港は、乗下船に便利な街の中心街にあり、多くの船が寄港を希望し、新規参入を制限している。23/24年シーズンにおける多様な船のキャンペーンで生まれた需要は、維持されており、クルーズ客船の供給キャパシティが低下した今、25/26年シーズンには需要が供給を上回る状態となっている。収益性も高まっていると思われる。

オーストラリアでは、シドニー港とブリスベン港からの発着が多い。シドニー港は、空港アクセスが良く、また、港から徒歩で街に行くことができる。シドニー空港は国際路線も多く、海外からの旅行者には人気だ。これにより、多様なマーケットから集客できるため、安定して収益を生み出すことができる。

ブリスベン港には新クルーズターミナルが造られ、カーニバル社との優先バース契約が締結されている。ブリスベン港とシドニー港では通年クルーズが可能である一方、その他の港では利用に季節的な制限がある。ブリスベン港のあるクイーンズランド州とシドニー港のあるニューサウスウェールズ州では、クルーズが旅行マー

ケットに浸透しており、気軽にクルーズを楽しむショートクルーズも人気である。

一方で、課題もある。クルーズ船の寄港には、インフラとしての港湾の整備が不可欠である。港湾における受け入れコストは、コロナ禍以降、大幅に値上がりしている。オーストラリアとニュージーランドでは、現在も、多くの港で大型船の受け入れに必要な改修工事が行われており、世界で最も港湾コストが高いエリアとなっている。さらに、環境への意識もたかまっており、離島では、受け入れ定員の人数制限や、寄港を許可しないところもある。

しかしながら、離島では、クルーズ船の寄港が、地域の活性化の一つとして求められているのも事実である。クルーズ船の維持に必要なインフラは、島にリゾートを建設するよりも少ないというメリットがある。多くの離島は観光需要の拡大策としてクルーズ船を求めており、太平洋の多くの観光地は、経済活性化策としてクルーズ船の寄港を歓迎している。

参考: 2023/24 The Value of Cruise Tourism
https://www.cruising.org.au/Tenant/C0000003/2025%20EVENTS/202324%20AU%20The%20Value%20of%20Cruise%20Tourism_Infographic_Digital.pdf



このように、オーストラリアのクルーズマーケットは、パンデミックや過当競争のショックから抜けだし、落ち着きを見せつつある。その中で、環境やコストの課題を抱えながらも、地域活性化や雇用創出などの経済効果を生み出し、持続可能な成長を目指し取り組んでいる。今後も様子を見守っていきたい。

